

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702818		
法人名	株式会社 シダー		
事業所名	あおぞらの里 グループホーム黒崎		
所在地	〒806-0051 福岡県北九州市八幡西区東鳴水三丁目6番1号 Tel.093-645-1612		
自己評価作成日	令和02年09月13日	評価結果確定日	令和02年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①入居者様の日々の日常生活を近況報告や写真付きのお便りで毎月お送りしている。ご家族様の交流の場でもある運営推進会議にも参加して頂き、今後のケアについても一緒に考えています。</p> <p>②出来るだけ長く元気に生き生きとした生活ができるようにご自分で出来ることはなるだけして頂くよう声掛けを行い自立支援を目指しております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel.093-582-0294	
訪問調査日	令和02年11月09日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「あおぞらの里 グループホーム黒崎」は、八幡西区東鳴水の住宅街に新築移転して9年目を迎える、デイサービス併設、定員9名の事業所である。法人全体で力を入れて取り組んでいる美化活動により清潔な住環境が整い、新型コロナウイルス感染症予防対策としてオゾン発生器を2台設置して、安心、安全に過ごせるよう配慮している。提携医療機関による訪問診療と緊急時の対応で安心の医療体制が整い、少しでも長くホームで過ごせるよう、連携して支援している。働きやすい職場環境の下職員が定着し、チームワークを活かした明るく細やかな対応でその人らしい暮らしに寄り添い、利用者の笑顔を引き出している。管理者を中心に、家族との関係性に気を配り、小まめな報告、連絡、相談を行い、ホーム便り、個別の近況報告を毎月送付して利用者の暮らし振りを伝え、「安心して任せられる」と家族の信頼も厚い、「あおぞらの里グループホーム黒崎」である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに掲示しています。尚社内外での勉強会や研修等で自分達のケアを振り返るようにしております。	法人理念をフロアの見やすい場所に掲示し、それぞれが日常的に目にする事で理念の共有を図っている。入社時の研修にて理念を理解する機会があり、時々管理者から声掛けする等して意識づけを行い、利用者一人ひとりに寄り添うケアの実践に取り組んでいる。	理念を唱和する等、定期的に理念を確認する事で、職員間の意識づけを行い、理念を共有し、実践に繋げていく事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の行事等には積極的に参加しております。日常では散歩など交流を図る機会を作り近隣の小学校の施設見学も受け入れております。	ホーム周辺を散歩する時には、地域の方に挨拶を心掛けて世間話に繋げ、地域の方との関係作りに努めている。今年度は新型コロナ感染症対策のため、地域の行事、活動が中止になっている。また、毎年、小学校の職場見学を受け入れているが、今年度は書面アンケートに答える形で実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会で入居者様と接して頂くことで認知症について少しでもご理解を頂けるよう努めています。介護されている地域の方から、ご相談頂く事もありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時々で必要な報告を行っています。運営推進会議の中では積極的に発言して下さる方が少ない為アンケートや交流会にて意見交換できるように努めております。	現在、新型コロナ感染症対策のため、報告を書面で行い、意見や要望を電話で聴き取る形で運営推進会議を行っている。利用者、家族、町内会会長、地域包括支援センター職員から出された意見や要望は検討し、サービスの向上に活かしている。	地域からの参加委員が少ないため、民生委員や市民センター館長等、外部の委員の増員に努め、情報交換しながら開かれたホームを目指していく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携については、運営推進会議に出席して頂き意見交換を行っています。定期的に窓口にも出向き関係構築に努めています。	管理者は行政担当窓口へ、空き状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例があれば相談し、連携を図っている。また、グループホーム協議会に参加し、他グループホームや行政と意見や情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を定期的に開催する事で全職員が正しく理解できるように努めています。玄関は電子錠により施錠されておりますが、ご本人様の意思により外出出来るように取り組んでおります。	身体拘束適正化の指針を作成し、委員会を定期的に開催している。社内、事業所内でも定期的に勉強会を開催し(年4回)、身体拘束が利用者へ及ぼす弊害について理解を深めている。また、禁止行為の具体的な行為の正しい理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会を毎年開催しており、日々の言動について振り返りながら防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のパンフレットを用いて職員の勉強会を実施しております。入居者様で権利擁護の制度が必要となれば支援できるよう努めております。ただし、実際に支援した事は現在のところありません。	成年後見制度の資料やパンフレットを用意して内部研修を実施し、職員が制度の内容を学ぶ機会を設けている。必要時には、家族に制度の内容を説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて契約内容等をご説明させて頂きご納得されたうえで契約を締結しております。変更時には運営推進会議の場もしくは個別にご説明させて頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会が比較的多い為、その時にご意見を伺うよう努めております。	現在、新型コロナ感染症対策のため、面会や運営推進会議の開催が難しい状況であるが、電話等で小まめに家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望、心配な事等を聴き取り、出された意見をホーム運営や介護サービスに反映させている。また、ホーム便りと個別の近況報告を毎月送付し、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会等で職員の意見や考えを確認しております。個別に面談をして確認することもございます。	月1回、勤務時間帯の13時半から14時の間に出勤職員で職員会議を開催している。会議時に限らず日頃から職員間で話し合い、管理者に相談し、出された意見や提案は検討し、出来る事からホーム運営や業務に反映させている。また、3ヶ月毎に人事考課を行い、個別に話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じて役割分担を行っております。また資格取得に対して研修会を開催する等のサポート体制も整っております。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は特に定めておりません。入職前に1日職場体験を行い、すべてを見て頂いたうえで意思を確認しております。個々の能力に応じて役割分担を行っております。また資格取得に対して研修会を開催する等のサポート体制も整っております。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担し、職員一人ひとりが生き生きと働ける環境作りに取り組み、職員は定着している。職員の募集は年齢、性別、資格、経験等の制限はなく、一日職場体験後に意思を確認して採用している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会の開催、マニュアルにて職員の教育を行っております。入居者様に対する言動等を定期的に振り返り気になる点については個別に面談を行い指導しております。	利用者の人権を尊重する介護の在り方について、職員会議や内部研修の中で話し合っている。利用者一人ひとりの個性や生活習慣を尊重し、言葉遣いや対応に注意して、利用者がホームの中でその人らしく安心して過ごせるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がステップアップできるように研修制度がございます。参加した職員が他の職員へ伝達講習を行うことで全職員が研修内容を理解できるよう努めております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、勉強会等に参加し情報交換にも努めております。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にてご本人様とお会いし傾聴しております。入居後は、職員が1名その方の担当につき不安を軽減できるよう努めております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に一度見学に来ていただけるようお願いしております。しっかり傾聴をし、入居後も随時対応しております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様より傾聴しますが、入居前に関わっていたサービス事業者からも情報収集しております。そのうえで今後の支援について検討しております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる事は一緒に」を念頭に置いて関係構築に努めております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会が比較的多い為、いらした時にご相談させて頂きながら支援の方向性を検討しております。毎月、お便りなどで近況報告も行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、写真付きのお便りをお送りしております。年賀状書きのお手伝いも毎年継続しております。そして、入居後も馴染みの美容室に行かれています方もいらっしゃいます。	新型コロナウイルス感染症対策のため、直接の面会が難しい状況であるが、電話で声を聞いたり、ガラス越しに顔を合わせる等、工夫しながら馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	極力、居室ではなく共同フロアで過ごして頂き、交流の時間を作るよう支援しております。発語が困難な入居者様については職員が関わりを多く持つように努めております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方についてはお見舞いに伺い、ご家族にはお手紙を書くこともあります。死亡退去となった方については初盆で伺っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様それぞれに担当をつけております。ご本人の意向を伺い表情や仕草にも注意しながら全職員で情報を共有し把握しております。	職員は、日常の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握し、アセスメントに記録して情報を共有し、日常の介護サービスに活かせるように取り組んでいる。また、意思を伝えることが難しい利用者については、家族と相談しながら、職員が利用者寄り添い、その表情や仕草から、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会議や交流会では積極的にお話をさせて頂いております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細に記録に残すよう努め、全職員で情報を共有しております。今後の方向性について話し合いを行いその方にあった支援を心掛けております。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望等をもとに検討し介護計画を作成しております。主治医の先生に助言を頂くこともあります。	利用者や家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、担当者会議で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の下段に日々の評価コメントがあり全員で記入しており、計画の見直しの際に参考にしております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事内容の変更や外出願望について臨機応変に対応できるように心掛けております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には極力参加出来るよう努めております。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や往診、外来受診で迅速に対応して頂けるのでご家族様も職員も安心しております。	入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。現在、全員がホームの協力医による定期的な訪問診療を受けている。他科受診は家族の協力の下行い、緊急時には往診をお願いする等、24時間安心の医療連携が図られている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定していない為看護職員は配置しておりません。協力医療機関先の看護師さんとは情報の共有は出来ております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様が混乱されないようにその方の情報をお渡しすると共に性格や詳細な情報について直接病院側はお伝えしております。退院時には、入院中の情報を頂き退院後の注意点等助言を頂いております。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や体調が悪化した際に、ご本人やご家族の意向確認を行っております。開設以来、看取りケアの実績はありません。現在は看取りの体制もとっておりませんので重度化した場合は入院となる為少しでも長く健康的に過ごせるように支援しております。	契約時に、重要事項説明書を基に、利用者、家族に対して、重度化や終末期に向けたホームの方針を説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医を交えて今後の方針を話し合い、利用者が1日でも長くホームで暮らせるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施しております。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時に避難場所については職員やご家族には周知しております。地域との協力体制については、一斉通報処置に携帯の番号を登録させて頂いてもらってます。有事にはご協力いただけます。	非常災害を想定した避難訓練を年2回実施し、内1回は消防署の協力を得ている。一斉通報装置に地域の方の連絡先を登録して、いざという時には駆けつけてもらえる協力体制を整えている。また、災害時に備えて非常食や飲料水を準備している。	ホームが2階にあるため、特に職員が一人になる夜間想定訓練を繰り返し行い、近隣に住む職員や地域の方の具体的な協力体制を確認し、非常時に備えることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な職員の言動について、本社の職員が確認しております。その結果について、職員同士検討し改善に努めております。	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方を職員が理解し、言葉遣いや対応に配慮している。法人全体で接遇に力を入れて取り組み、電話対応、挨拶、優しい声掛け等を徹底している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に常に説明し、周知されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様によって意思表示が異なります。二者択一にしてみたり、表情から読み取ってみたりとご本人の希望を汲み取れるよう努めております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況や表情に合わせて、入居者様が前向きになれるようお声掛けのタイミングや方法を工夫しております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を心待ちにしている方がいれば、行きつけの美容室にご家族様といかれる方もおられます。爪切りや髭剃りはお声掛けさせていただき、お手伝いが必要な方へは支援しております。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は厨房(委託業者)からの給食です。月に数回の手作りの日には入居者様のリクエストにお応えできるよう努めております。週一回のおやつ作りも楽しみにしている様子です。	昼食と夕食は1階の厨房で作られる委託業者による配食サービスを利用している。利用者に食べたい物を聞いて職員が作る月2回の家庭的な料理の提供と、週1回のおやつ作りは、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減(月1回)、食事量及び水分量、排泄状況(毎日)を観察しながら支援しております。糖尿病の方については、ご家族様と相談させて頂きながら対応方法を決めております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しております。ご自分で出来ない方(義歯)の手入れについては、支援しております。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を用いて、その方の排泄パターンを把握するように努めております。出来る限りトイレでの排泄が出来るように努めております。	声掛けが必要な利用者に関しては排泄管理表に記録して排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、職員は、利用者の腹部マッサージや水分摂取に取り組み、利用者の排泄がスムーズに行われるように支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸剤等を服薬してコントロールされている方が多い状況です。腹部マッサージや水分摂取強化等の対応も行っております。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は週3回(火・木・土)で固定させて頂いておりますが、入浴時間については入居者様のご希望に添えるよう努めております。季節感を感じて頂けるように菖蒲湯や柚子湯等も取り組んでおります。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら週3回(火、木、土)を基本とし、湯船に菖蒲や柚子、香りの良い入浴剤等を入れて、入浴を楽しめるよう支援に努めている。また、入浴は、利用者と職員が一对一でゆっくり関われる大切な時間と捉え、しっかりとコミュニケーションを取っている。現在、入浴を拒む利用者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中は活動的に過ごして頂けるように支援しております。入居者様のご希望時や体調不良時には居室で休んで頂いております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報については、いつでも職員が確認が出来るようにしております。日々の変化等については、介護記録に記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味活動を大切に、極力継続できるよう支援しております。植木の水やり、掃除や洗濯物を置く等の役割をお願いしている方もいらっしゃいます。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように定期的にドライブに行っております。普段もおやつを買いに近くのコンビニエンスストアに行ったり、日用品の買い物や衣類を一緒に買いに行くこともあります。	現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、外出を控えているが、天気の良い日には個別に近所を散歩する等、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は施設でお小遣いをお預かりしておりますが、支払い時には極力入居者様にお金をお渡しして対応しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を繋いだり、時には入居者様から電話できるように支援しています。毎年、年賀状も出せるようにお手伝いをしております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染症対策及び消臭対策には力を入れております。その他は、季節感を感じて頂けるようディスプレイを工夫しております。	美化活動に励み、季節毎のディスプレイによって、季節感のある清潔で明るい雰囲気のある共用空間となっている。また、感染症対策には特に力を入れて取り組み、オゾン発生器を2台設置している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、テーブルスペース、ソファースペースをすることで自由に場所を選択できるように努めております。時には場所の取り合いにもなりますがそれも社会的刺激となり良い刺激だと思っております。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員がご家族と相談しながら必要な物を揃えたり使い慣れた物の配置を検討しております。居室清掃時には入居者様と一緒にする事もあります。	入居時に、利用者や家族と話し合い、馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、本人が安心して過ごせる居室となるよう配慮している。また、清掃を小まめに行い、清潔で居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に動きが出来るような環境設定をしております。できる事を日々支援させて頂いております。		